



副情報工学研究院長／
副情報工学府長／
情報工学部広報室長／
教授

安永 卓生 先生

学びの場として、そして知の発信源として

- 情報工学部の利用の仕方 -

九州工業大学情報工学部は、ここ飯塚の地に、1986年10月に設置され、この2011年の秋に、25周年を迎えます。この四半世紀は、高度情報化社会の波の中で、日本や世界が大きな変化を迎えました。携帯電話、インターネット、ICカードにネット商取引など、情報通信技術が生活の身近な生活のなかにあふれています。世界も、情報通信技術とともにグローバル化し、世界全体の景気動向がリアルタイムで連動し合う時代です。また、マイクロソフト、アップル、グーグルやヤフーなど、ベンチャーであった情報関連企業が世界の経済の中心を担うサービスを提供しています。

今春、「東日本大震災」が occurred。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。九州工業大学情報工学部として行うべきこと、できることは何かを改めて突きつけられました。この25周年の節目の年に、次の時代に大学として行うべき道を模索し、実行に移したいと思えます。

この四半世紀は、大学にとっても大きな変革の時期でした。2004年には、国立大学から国立大学法人となり、一法人として大学運営することになりました。大学・学部が全体として目標をたて、計画を立て、実施していくという、民間では当たり前の手法をとることを求められ、改めて、大学・学部のアイデンティティを問われる時代となりました。元来、九州工業大学は、1909年に、筑豊御三家の一つ安川財閥の安川敬一郎によって設立された、私立の4年制の専門学校である明治専門学校がスタートです。「技術に堪能なる土君子の養成」を基本理念として100年を超え、多くの技術者を輩出してきました。その建学の精神を改めて意識し、個性豊かな工業系大学としての歩みを再構築しています。

また、2006年の教育基本法の改正では、「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と、大学の役割が明確に定義されました。これに伴い、国の多くの制度、法体系が順次再設計されています。従来からの、教育・研究活動はもちろんのこと、「成果を広く社会に提供すること」が明示されました。産学連携もそのひとつですが、初等・中等教育課程との連携、市民の皆様への科学リテラシー（科学に対する知識と素養）を身につける場の提供なども、大学のもつ役割として重要視されています。

こうした状況の中で、九州工業大学・情報工学部でも、さまざまな事業を展開しています。そのいくつかを施設と共にご紹介します。

図書館は大学の知の発信の重要な位置づけです。市民の皆様もご利用できます。その図書館に隣接し、2010年3月より、飯塚サイエンスギャラリー(ISG)が開設されました。情報工学・科学の歴史の一端に触れるミニ博物館です。通常、平日の12時～13時の開館です。予めご相談頂ければ、団体が時間外の利用が可能です。小中高校での学習の機会に、PTAの皆様への研修の機会に、是非、ご利用下さい。

また、このISGを中心に、小中学生、一般の皆様を中心に向けたイベントであるISGフェスタを今秋も実施予定です。また、一般の皆様にも科学者である当大学教員と共に座談・雑談する時間として、サイエンスカフェを始めました。これ以外にも、高校生向け、教員向けなど各種の講座、セミナーを企画しています。オープンキャンパスや工大祭でも、研究室の公開や施設の公開を行います。詳細は情報工学部HPをご覧ください。

スクールバスは、電車やバスを利用して大学へ通学する学生の利便性を向上することを目的として、昨年度より運行を始めました。九工大飯塚キャンパス構内、飯塚バスセンター、新飯塚駅を直通で巡回しています。一日平均、延べ約400名が利用しています。大学関係者以外の利用も可能です。継続的運行にご協力して頂くために、大学生協にて、1回利用券、1ヶ月利用券を、100円、2400円(2011年4月現在)で販売しております。是非、ご利用下さい。また、バスを利用した広告も可能です。

スクールバス降車場近くのMILAiS(インタラクティブ学習棟)は、新しい大学での学びのスタイルを模索するために今春、建設されました。大学における、従来の座学による対面式講義方式や演習、実験に加え、「グループ学習による学びの深化」がその目的です。情報通信技術による各種機器を用いた講義方法も試行予定です。

また、キャンパスは、四季折々、自然の美しい姿を示すよう、設計されています。食堂もあり、軽食をとることもできます。是非、大学に足をお運び頂き、大学のもつ「学舎」の雰囲気を感じて下さい。この雰囲気の維持もまた、大学のもつ知の発信としての重要な要素です。

施設は、「学びの場」としてご利用頂くことができます。情報工学部・広報室までご一報頂ければ、ご利用のお手続き等の方法についてもご連絡できます。

